10月の農薬

平成18年10月１日

この資料の活用は、窓口での即対応と今月と翌月の農協在庫計画にもご利用できます。

おうとう･もも･うめ

休眠期間中のコスカシバ対策

○コスカシバは10月上旬までの防除が効果的です。（防除時期が遅れると樹木の深いところへ食入し薬剤が到達せず効きにくくなります）

(1)　コスカシバの生態

コスカシバは年１回の発生で、幼虫で枝幹の加害部で越冬するが、越冬幼虫は若齢から老熟まで混在し越冬する。成虫は長期にわたって発生するが、初発生は５月下旬頃からで、一般には８月下旬～９月下旬が最盛期となる。雌は成虫になると交尾し、枝幹の割れ目などに産卵する。ふ化した幼虫は樹皮の傷口や皮目などから樹皮下に食入し、皮層組織の木質部を食害するため、被害部から樹液がしみ出し、樹の衰弱を招く。

(2)　防　除　法

①　各果樹の休眠期に**ラビキラー乳剤、200倍**を枝幹部を中心にていねいに散布する。（ぶどうのトラカミキリ防除にも200倍～300倍で使用できます）

②　交信かく乱剤による防除

スカシバコンを越冬成虫発生前の５月下旬までに設置する。１区画20ａを目処とし、10ａ当り50～150本設置する。

③　春先の活動が盛んになった頃、糞を排出している穴を目安に小刀等で幼虫を掘り出し捕殺する。樹には、傷口を保護するためトップジンMペースト等を塗布しておくとよい。

果 樹 全 般

ラウンドアップハイロードの秋処理による雑草防除対策

○果樹園の雑草を秋期に防除することにより、春先の雑草の生育を長期間抑えます。

○降雪前の雑草が枯れる前（10月～11月）の処理が効果的です。

薬　剤　名	主　な　対　象　雑　草		10ａ当りの薬量	10ａ当りの散布	備　　考
ラウンドアップハイロード	多年生雑草	オーチャードグラス、チガヤ、ケンタッキーブルーグラス、サヤヌカグサ、チゴザサ、ヨモギ、ギシギシ、タンポポ、オオバコ、ハルジョオン　等	750mℓ	50ℓ～100ℓ	・おおむね、100倍程度で処理し、根や地下茎まで枯殺する。 ・散布量は、50ℓ/10ａを目処とし、50ℓ散布用のノズルを使用する。
		ススキ、ヨシ、マコモ、ガマ、ミズガヤツリ、セイタカアワダチソウ、イタドリ、ササ類、ヤブカラシ　等	1,000mℓ		・おおむね、50倍程度で処理し、茎葉全体に付着するよう散布する。 ・比較的遅効性だが、翌春の発生は極めて少なくなる。 ・散布量は50ℓ/10ａを目処とし、50ℓ散布用のノズルを使用する。

※ラウンドアップハイロードを散布する場合は専用のラウンドノズル（25ℓ用は一年生雑草対象の少量散布用）を使用すると飛散が少なく、散布量も調節しやすくなります。

野菜･花き類

ガスタード微粒剤による本畑の土壌消毒

○各種作物の土壌消毒には、臭化メチルの代替剤として、ガスタード微粒剤を中心としたダゾメット剤やＤ－Ｄ剤及びクロールピクリンなどが有効です。

薬　剤　名	作　物　名	対象病害虫	使　用　方　法
ガスタード微粒剤	いちご、カーネーション、花卉類(草本類)、きく、キャベツ、きゅうり、さといも、さやえんどう、しゃくやく、しゅんぎく、すいか、ストック、セルリー、だいこん、とうがらし類、トマト、なす、にんにく、ねぎ、はくさい、みずな、ミニトマト、メロン、ゆり、りんどう	青枯病 立枯病 苗立枯病 つる割病 萎ちょう病 ネコブセンチュウ（センチュウ類）	①　土壌を耕起したあと、10ａ当り20～30kgを均一に散布し、深さ15～25cmに土壌と十分混和する。 ②　混和後ビニール等で被覆する。（但し、水分が少ない場合は散水後被覆するとガス化が早くなります） ③　被覆しない場合は鎮圧、散水して、ガスの蒸散を防ぐ。 ④　処理７～14日後に被覆を除去し、少なくとも２回以上耕起し、ガス抜きを行う。 ⑤　その後、５～６日以上経てから作付する。

もっと近くに。

JA全農山形

全農山形県本部　生産資材部

お問い合わせ・ご注文の電話番号
０２３－６３４－８１５７

ご注文の際のFAX番号
０２３－６３４－８１８２

農薬はJAマークの製品を！

先入れ先出しの励行を！